

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-182127

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月6日

(51) Int.Cl.⁶

E 0 5 F 5/00

識別記号

F I

E 0 5 F 5/00

C

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-365212

(22) 出願日 平成9年(1997)12月19日

(71) 出願人 000205476

大阪金具株式会社

大阪府大阪市淀川区三津屋北1丁目4番10号

(72) 発明者 南 参郎

大阪府大阪市淀川区三津屋北1丁目4番10号 大阪金具株式会社内

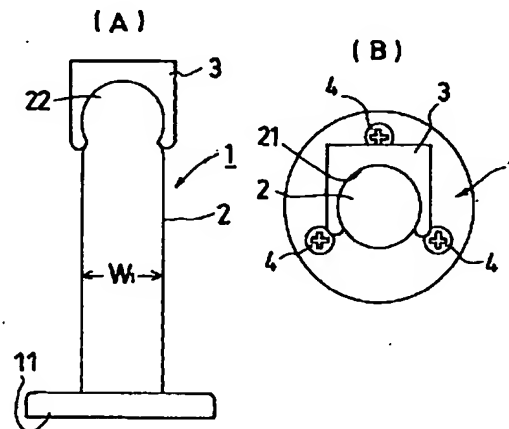
(74) 代理人 弁理士 森 治 (外1名)

(54) 【発明の名称】 戸当たり

(57) 【要約】

【課題】 耐久性を有し、ドアを開放状態に保持したり、その状態を解除する操作を簡易に行うことができようになるとともに、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができるようにした戸当たりを提供すること。

【解決手段】 壁又は床に固定する台座11に支柱12を突設した戸当たり本体1と、この戸当たり本体1の先端部14又は外周部12と嵌合し、保持可能に形成したドアに固定する係止体3とから構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 壁又は床に固定する台座に支柱を突設した戸当たり本体と、この戸当たり本体の先端部又は外周部と嵌合し、保持可能に形成したドアに固定する係止体とからなることを特徴とする戸当たり。

【請求項2】 戸当たり本体の先端部と外周部の外径を等しく形成するとともに、先端部の外周にくびれ部を形成したことを特徴とする請求項1記載の戸当たり。

【請求項3】 戸当たり本体の支柱の外表面を弾性体により覆ったことを特徴とする請求項1又は2記載の戸当たり。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、戸当たりに関し、特に、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができるとともに、ドアを開放状態に保持できるようにした戸当たりに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ドアの開放時に、ドアやドアに取り付けたノブが、柱や壁等の躯体に衝突することを防止するために、ドアの最大許容開放位置の壁又は床に、ドアの開放角度を規制する戸当たりを固定するようにしていた。また、ドアを開放状態に保持するために、ドアに突設したフックに、戸当たり配設した係止環を引掛けるようにしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来の戸当たりには、ドアが当たったときの衝撃力を緩衝するための弾性体を、その先端部に装着するようにしているが、この弾性体は、長期間の使用により劣化し、戸当たりから脱落する等、耐久性に問題があった。また、ドアを開放状態に保持したり、その状態を解除するために、フックに係止環を引掛けたり、外したりする操作を、腰を屈めて行わねばならないという問題があった。さらに、従来の戸当たりは、その使用形態、より具体的には、壁付と床付とで、その基本構造が異なり、簡単な構造で、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができるものはなかった。

【0004】本発明は、上記従来の戸当たりの有する問題点に鑑み、耐久性を有し、ドアを開放状態に保持したり、その状態を解除する操作を簡易に行うことができるようにするとともに、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができるようにした戸当たりを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明の戸当たりは、壁又は床に固定する台座に支柱を突設した戸当たり本体と、この戸当たり本体の先端部又は外周部と嵌合し、保持可能に形成したドアに固定する係止体とからなることを特徴とする。

【0006】この戸当たりにおいて、戸当たり本体と係止体とは、ドアを開いて戸当たり本体に押し付けるようにするだけで、嵌合してドアを開放状態に保持することができるとともに、ドアを閉じる方向に引くだけで、嵌合状態を解除し、ドアを閉じることができる。また、係止体は、戸当たり本体の先端部及び外周部のいずれにも嵌合し、保持することができるため、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができる。

【0007】この場合において、戸当たり本体の先端部と外周部の外径を等しく形成するとともに、先端部の外周にくびれ部を形成することができる。

【0008】これにより、共通の係止体を用いて、壁付、床付のいずれの形態にも使用できるとともに、戸当たり本体の先端部を確実、かつ強固に保持することができる。

【0009】また、戸当たり本体の支柱の外表面を弾性体により覆って構成することができる。

【0010】これにより、ドアが当たったときの衝撃力の緩衝性能を向上できるとともに、弾性体が従来のように脱落することがなく、耐久性を向上することができるとともに、外観をシンプルにできる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の戸当たりの実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0012】図1～図3に、本発明の戸当たりの第1実施例を示す。この戸当たりは、壁又は床にビス4により固定する戸当たり本体1と、ドアにビスにより固定する係止体3とより構成される。

【0013】戸当たり本体1は、真鍮、アルミニウム合金、ステンレス等の金属又は所要の強度を備えた硬質の合成樹脂からなり、円形、多角形、その他デザイン的に優れた形状をした平盤状の台座11の中央部に、所要長の支柱12を突設するとともに、台座11に複数のビス孔13を穿設して構成するようにする。

【0014】戸当たり本体1の支柱12は、その外周部の外径W1と先端部14の外径W2が略等しくなるようにするとともに、先端部14の外周に、この先端部14の外径W2よりも小径W3のくびれ部15を形成するようにする。

【0015】係止体3は、戸当たり本体1の外周部21又は先端部22と嵌合し、保持することができるように、所要の弾性を備えた合成樹脂等の材料で以て構成し、戸当たり本体1を保持する挟持片31、31を対向して配することにより、全体として略C字状に形成するとともに、中央部に、ビス孔33を穿設して構成するようにする。この場合、係止体3の内周面34の内径W4は、戸当たり本体1の支柱12の外周部の外径W1及び先端部14の外径W2と略等しく形成し、挟持片31、31の開口幅W5を、内周面34の内径W4よりも小さく形成するようにする。この挟持片31、31の開口幅W

5は、ドアを開いて、ドアに固定した係止体3を戸当たり本体1に押し付けるようにするだけで、係止体3の挟持片31、31が押し抜けられ、係止体3が戸当たり本体1と嵌合してドアを開放状態に確実に保持することができる。また、ドアを閉じる方向に引くだけで、嵌合状態を解除し、ドアを閉じることができるように設定する。

【0016】次に、この戸当たりの使用形態について説明する。戸当たり本体1は、壁、床のいずれにも固定することができるが、まず、壁に固定する場合について説明する。図3(A)に示すように、戸当たり本体1を壁に、係止体3を、ドアを開けたとき戸当たり本体1の先端部14と対向するドアの位置に、それぞれビスにより固定する。これにより、ドアを開いて、ドアに固定した係止体3を戸当たり本体1の先端部14に押し付けるようにするだけで、係止体3の挟持片31、31が押し抜けられ、係止体3が戸当たり本体1のくびれ部15と嵌合してドアを開放状態に確実に保持することができる。また、ドアを閉じる方向に引くだけで、嵌合状態を解除し、ドアを閉じることができるものとなる。

【0017】次に、戸当たり本体1を床に固定する場合について説明する。図3(B)に示すように、戸当たり本体1を床に、係止体3を、ドアを開けたとき戸当たり本体1の支柱12の外周部と対向するドアの位置に、それぞれビスにより固定する。これにより、ドアを開いて、ドアに固定した係止体3を戸当たり本体1の支柱12の外周部に押し付けるようにするだけで、係止体3の挟持片31、31が押し抜けられ、係止体3が戸当たり本体1の支柱の外周部と嵌合してドアを開放状態に確実に保持することができる。また、ドアを閉じる方向に引くだけで、嵌合状態を解除し、ドアを閉じることができるものとなる。

【0018】ところで、本実施例においては、戸当たり本体1を、金属又は硬質の合成樹脂にて製作するようにし、ドアが当たったときの衝撃力の緩衝を、所要の弾性を備えた係止体3により行うようにしているが、ドアが当たったときの衝撃力の緩衝性能を向上させた、本発明の戸当たりの第2実施例を、図4に示す。

【0019】この戸当たりは、壁又は床にビス4により固定する戸当たり本体1を、真鍮、アルミニウム合金、ステンレス等の金属又は所要の強度を備えた硬質の合成樹脂からなり、円形、多角形、その他デザイン的に優れた形状をした平盤状の台座11の中央部に、所要長の支柱12を突設するとともに、台座11に複数のビス孔13を穿設し、さらに、支柱12の外表面の全体を覆うように、軟質の合成樹脂又は合成ゴムからなるキャップ状に形成した弾性体2を装着して構成するようにしている。

【0020】弾性体2は、戸当たり本体1の支柱12に装着したとき、外周部21の外径W1と先端部22の外

径W2が略等しくなるようにするとともに、先端部22の外周に、この先端部22の外径W2よりも小径W3のくびれ部23を形成するようにする。また、弾性体2の外周部21及び先端部22は、ドアが当たったときの衝撃力を緩衝することができる所要の厚みを有するように形成する。

【0021】この場合において、弾性体2が、戸当たり本体1の支柱12に装着した状態で抜けないように、弾性体2の内径を戸当たり本体1の支柱12の外径よりもやや小径に形成するようにしたり、接着剤で固定するようにしたり、戸当たり本体1の支柱12の表面に抜け止め用の凹凸を形成することができる。また、実施例においては、キャップ状に形成した弾性体2を支柱12に装着するようにしたが、これに限定されず、溶融状態の合成樹脂又は合成ゴムを、支柱12の外表面の全体を覆うように、支柱12と共に型内に供給して、成型することもできる。

【0022】なお、戸当たり本体1と組み合わせて用いる係止体3を含むその他の構成及び戸当たりの使用形態等は、上記第1実施例と同様である。

【0023】

【発明の効果】本発明の戸当たりによれば、戸当たり本体と係止体とを、ドアを開いて戸当たり本体に押し付けるようにするだけで、嵌合してドアを開放状態に保持することができる。また、ドアを閉じる方向に引くだけで、嵌合状態を解除し、ドアを閉じることができる。これらの操作を立ったままで簡易に行うことができる。また、係止体は、戸当たり本体の先端部及び外周部のいずれにも嵌合し、保持することができるため、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができ、戸当たりの共用化によるコスト低減を図ることができる。

【0024】また、戸当たり本体の先端部と外周部の外径を等しく形成するとともに、先端部の外周にくびれ部を形成することにより、共通の係止体を用いて、壁付、床付のいずれの形態にも使用することができるとともに、戸当たり本体の先端部を確実に、かつ強固に保持することができる。

【0025】また、戸当たり本体の支柱の外表面を弾性体により覆って構成することにより、ドアが当たったときの衝撃力の緩衝性能を向上することができる。また、弾性体が従来のように脱落することがなく、耐久性を向上することができる。また、外観をシンプルにできる。また、色調の異なる複数種類の弾性体を選択的に用いることによって、床や壁との調和を容易に取ることができ、戸当たりを取り付けることによるドア付近の外観の悪化を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の戸当たりの第1実施例の戸当たり本体を示し、(A)は平面図、(B)は正面断面図である。

【図2】同係止体を示し、(A)は平面図、(B)は正

面図である。

【図3】本発明の戸当りの使用形態を示し、(A)は壁に取り付けた状態を示す平面図、(B)は床に取り付けた状態を示す平面図である。

【図4】本発明の戸当りの第2実施例の戸当たり本体

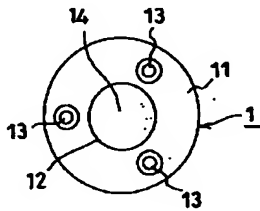
を示し、(A)は平面図、(B)は正面断面図である。

【符号の説明】

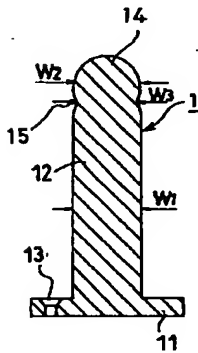
- 1 戸当たり本体
- 2 弾性体
- 3 係止体

【図1】

(A)

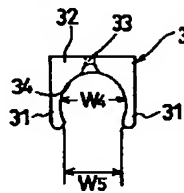


(B)

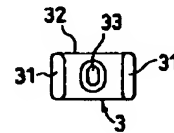


【図2】

(A)

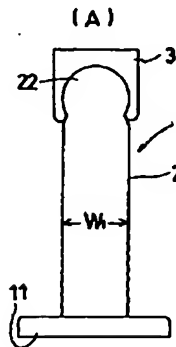


(B)

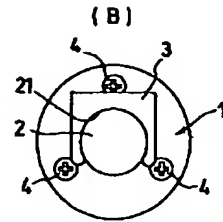


【図3】

(A)

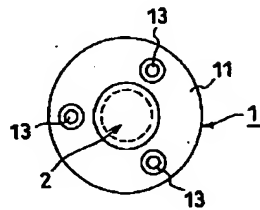


(B)



【図4】

(A)



(B)

